

3.Kaptolla村の給水所(水キオスク)の設置(ケニア)

- 実施団体:Ufanisi Support Group (USG) (#099)
- 実施地:ケニア Bungoma県 Kaptolla村の市場
- プロジェクト予算:1,805ドル(JWFファンド1,500ドル、受益者305ドル)
- 受益者数:女性250人
- 実施地の水問題:

Kaptolla村に住む250世帯は貧困と水不足に苦しんでいる。村には1つ市場があり、各自が育てた野菜を販売し、生活に必要なものを購入している。この市場には安全な水が無いため汚染された水に起因する病気が発生し市場が閉鎖されようとしている。女性たちは村から最大2.5キロ離れた水源から水を汲む、または高額で販売される水を購入している。水の費用や病気の治療に収入の3割以上を費やすため、貧困状態から抜け出すことが出来ない。



汚れた水源から水を汲む女性



キオスクを設置する市場

- 主な活動内容:関係者との初回ミーティング、給水所(水キオスク)と配管1キロの設置、水利用者組合の設立、維持管理と衛生に関する啓発活動、水質検査
- 特長(持続性):水公社からの給水と技術者の派遣、キオスクの水は少額で販売し、売り上げは利用者組合員が管理する。
- 団体:貧困に苦しむ人々へ水と衛生、経済自立支援、教育などを提供している。2017年に湧水保護設備建設を支援。

JWFファンド2021 完了報告 概要

3. Kaptolla村の給水所(水キオスク)の設置(ケニア)

実施中の様子



キオスク建設状況



パイプ敷設状況

現場からの声(抜粋)



Erastus Mulongoさん
(男性、47歳、地域病院の管理者)

これまでは劣悪な水のため、十分な水を確保することができませんでした。しかし、日本水フォーラムからの資金により、近くに安全できれいな水が入るキオスクができ、労働環境や衛生環境が大きく改善されました。

実施後の様子



キオスクからの給水の様子



キオスクの前で
謝意を示す女性たち



Blessings Sakulaさん
(女性、24歳、給水施設の利用者)

政府によるCOVID-19の厳しい規制のため、私の店は閉店を余儀なくされていましたが、キオスクで新鮮な水が入ることができるようになり、お店も再開できました。